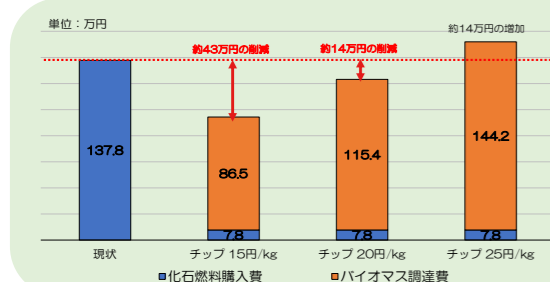


津別町の再エネ取り組み簡易年表



※ 令和3(2021)年度以降に、木質バイオマスセンターの建設およびつべつ木材工芸館「キノス」へのチップボイラー(仮)の導入を想定しています。
木質バイオマス導入施設(令和3(2021)年3月末現在)：既設・新規予定

- 平成19(2007)年度**
- 津別町バイオマスタウン構想策定
 - 丸玉木材株式会社(津別単板協同組合)バイオマスエネルギーセンター運用開始
- 平成21(2009)年度**
- 津別町木質ペレット製造施設稼働
 - 役場庁舎等公共施設にペレットボイラー3台導入
- 平成23(2011)年度**
- 津別町森林バイオマス利用推進協議会設置
- 平成24(2012)年度**
- 津別町森林バイオマス熱電利用構想策定
- 平成26(2014)年度**
- 認定こども園にペレットボイラー導入
- 平成27(2015)年度**
- 津別町モデル地域創生プラン策定
- 平成28(2016)年度**
- 西町団地に熱供給システムを導入(ペレットボイラー1台)
- 令和2(2020)年度**
- 役場新庁舎にペレットボイラー1台導入(予定)
 - 消防新庁舎にペレットボイラー1台導入(予定)

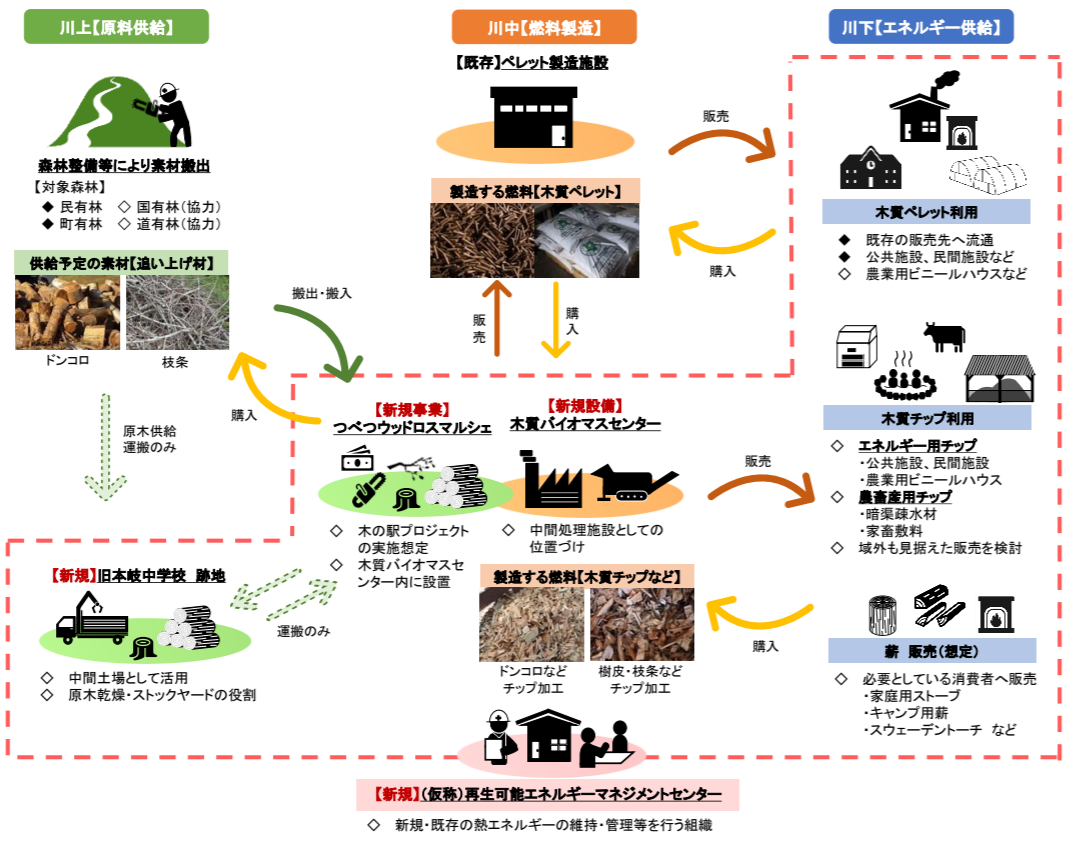


つべつ木材工芸館「キノス」に木質バイオマスのチップボイラーを導入すると、化石燃料を購入していた時よりも、チップ購入価格が15円/kgの時には約43万円、20円/kgの時には約14万円も化石燃料購入費用を削減できることがわかりました。
 また二酸化炭素排出量は34 t-CO₂を削減することができ、地球温暖化防止へ貢献することが可能です。



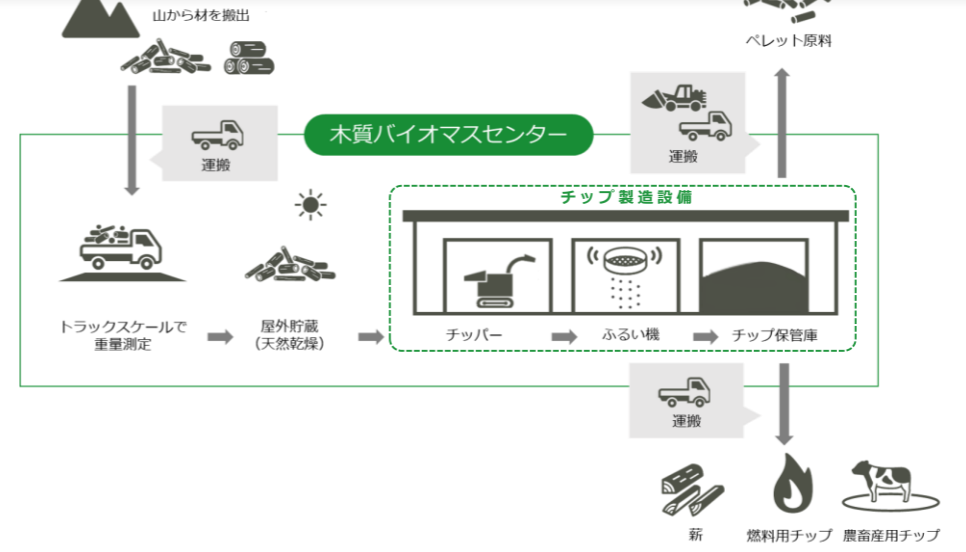
津別町のサプライチェーンの構築に向けて

津別町では、地域資源である木質バイオマスの利活用をとおして、地域の基幹産業である林業を促進させ、地域資源やエネルギー、持続的な域内経済循環を図ることを目標としています。
 津別町内の山林から産出される追上げ材や枝条といった「林地未利用材」の利用体制を整備し、木質バイオマスの利活用の促進及び収入増加、再造林時の作業負担の軽減と野生動物の食害抑制、森林所有者への金銭的負担を軽減し、適正な森林整備と里山整備を目指すことで、津別町のサプライチェーンの構築につながると考えています。
 令和2(2020)年度では、木質バイオマスセンターの建設、つべつウッドロスマルシェの仕組み、旧本岐中学校跡地のランドの有効活用について、検討・協議しました。



津別町の目標とする地域内エコシステムのサプライチェーン

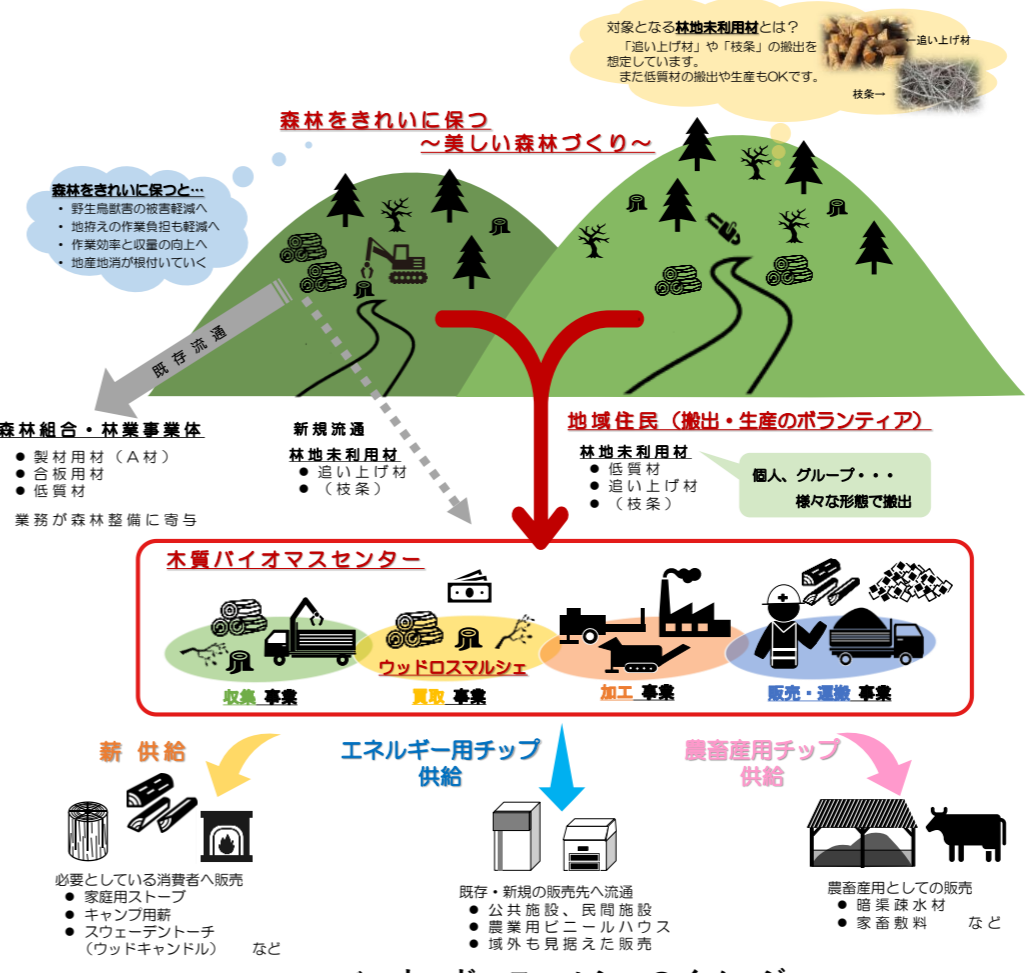
木質バイオマスセンターの建設に向けて 津別町全体で森林・地域資源を余すことなく利用できる仕組みの構築へ



木質バイオマスセンターのイメージ：製品製造加工設備

津別町では、令和元(2019)年度から引き続き、地域内エコシステムの構築の核となる「木質バイオマスセンター」の設立を準備しています。
 木質バイオマスセンターは、地域資源である木質バイオマスを利用し、収集・受け入れ(買取)・チップ加工(薪含む)・販売・運搬等を行う一手に担う設備として機能する予定です。また、これを運用するのが(仮)津別町再生可能エネルギーマネジメントセンターであり、公民連携の組織を目指しています。
 木質バイオマスセンターで製造された製品は、林業のみならず農業への利用も可能であり、産業間での幅広い利活用も視野に入れています。
 木質バイオマスセンターの機能の一つである受け入れ(買取)では、①森林所有者への利益の還元および森林所有者・地域住民の気運醸成の場づくり、②森林整備に資する林地未利用材の有効活用と収集する仕組みづくりの2つを目的に、津別町独自の仕組み「つべつウッドロスマルシェ」の実施に向けて、検討しています。つべつウッドロスマルシェに、木を持ち込むことで、わずかではありますが収入が得られ、津別町のために役立つことにつながります。

つべつウッドロスマルシェの実施に向けて



ウッドロス(=林地未利用材)は、津別町生まれの造語です!



つべつウッドロスマルシェのイメージ